

【全体概要】 本県の主力輪ギク品種「精の一世」等では、夏期の地温上昇に伴う立枯れ症状の発生が問題となっており、安定生産の妨げとなっている。適切な灌水管管理は、立枯れ症状の発生を軽減することが知られているが、生産者の経験に基づいた管理がされていることが多い。土壌水分をデータでとらえ、灌水管管理について、指標及びモデルを作成し、立枯れ症状の発生を抑制することでキク類の安定生産に資する。

新品種・新技術等の概要

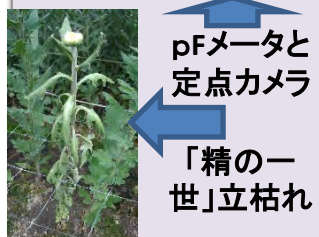
「キクの灌水管管理改善による立枯れ症状の軽減」

開発者：東三河農林水産事務所田原農業改良普及課

開発年：平成25年

特徴

- ①ロガーを使わないので安価にできる。
- ②定点カメラでメータ表示を撮影してデータを保存。
- ③pF値を把握し、灌水管管理の適正化で立ち枯れ症状の減少につながる。



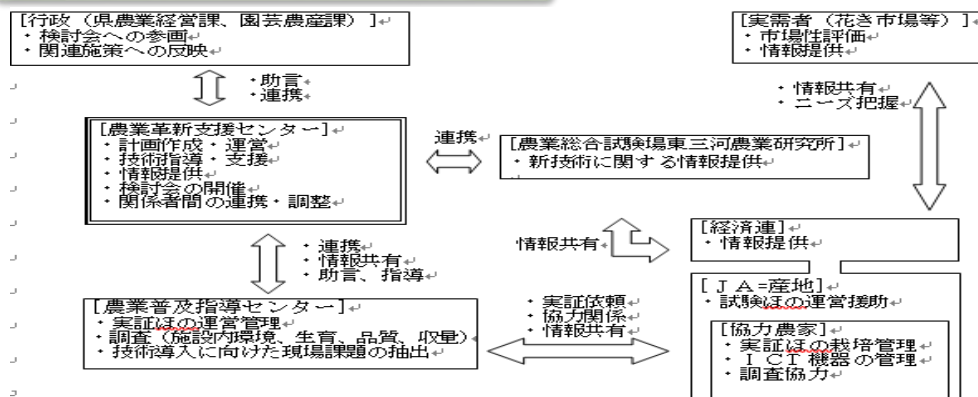
pFメータと
定点カメラ

「精の一世」立枯れ

主な取組内容

- ・実証試験結果の検討会議の開催
- ・環境モニタリングを利用した栽培優良事例の温湿度データ取得と灌水管管理の実態把握
- ・実証試験の実施・実証試験結果の取りまとめ
- ・産地・実需者との情報交換会の開催
- ・灌水管管理指標案及びモデル案の作成

実施体制図



課題と今後の対応

【取組の結果】

- ・キク類の施設栽培において環境モニタリングを利用した土壌水分データの取得と見える化及び灌水管管理との関係性を把握できた。
- ・きく栽培において灌水管管理指標案およびモデル案作成にむけた実証試験を行った
- ・実証試験結果の検討会議や、産地と実需者の相互理解の醸成や連携強化のため情報交換会の開催により、当該技術について情報共有を図った。

【今後の対応】

- ・灌水管管理指標及びモデルを作成する。
- ・普及に関するパンフレット(手引き)を作成する